

近畿圏（関西）広域地方計画骨子（案）概要①

資料2

第1部

関西の特徴

■歴史が深く息づき、个性的で多様な地域からなる関西 P2

- ・関西には、世界文化遺産14件中5件、国宝の約5割、重要文化財の約4割を有し、それぞれの地域が長い歴史を有し、个性的で多様な地域で構成されている。

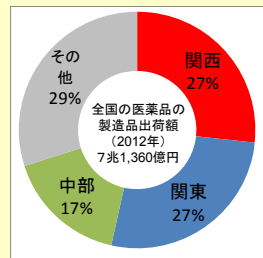
■産業等の諸機能の集積が進んだ関西 P2～3

- ・関西は、産業、学術、中枢管理や国際交流といった諸機能においても西日本で最も集積が進んだ圏域である。

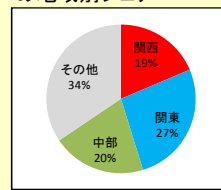
■最先端の技術力で我が国を牽引する関西 P3

- ・関西は、ロボット産業、医薬品等のバイオ・ライフサイエンス産業など、次世代を先導する産業の優れた技術力を有する企業や、機械・加工、素材・化学のグローバルニッチトップ企業が多く集積している。

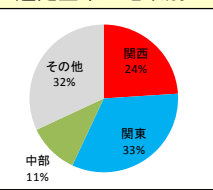
関西の医薬品産業のシェア



製造業事業所の地域別シェア



グローバルニッチトップ（GNT）選定企業の地域別シェア



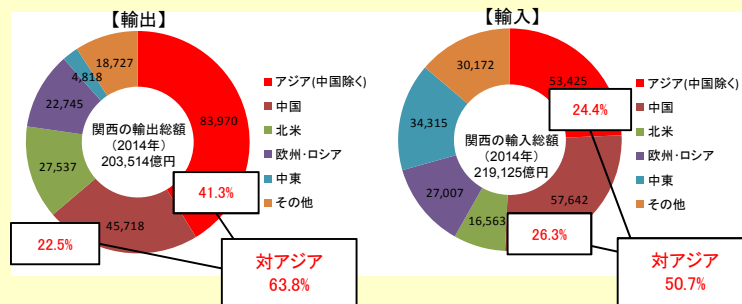
GNT特化係数	関西	関東	中部	その他
	1.29	1.24	0.54	0.93

注1) 特化係数＝「GNT選定企業数の対全国シェア」／「事業所数の対全国シェア」
注2) 経済産業省の「グローバルニッチトップ100選」（2014年3月公表）選定企業の所在地。
注3) 事業所数は従業員4人以上の製造業事業所を対象。（工業統計調査の2013年速報値）

■アジアとのつながりが深い関西 P3

- ・関西の貿易額に占めるアジア貿易の割合は約6割
- ・関西国際空港は、国際就航便のうち、約8割はアジア路線。

関西の輸出入額の相手地域別の構成（貿易統計、2014年速報値）



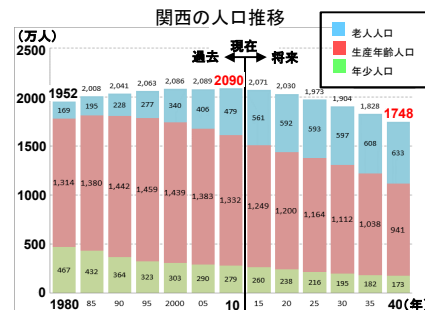
■人と自然のつながりが深い関西 P3

- ・京阪神都市圏の外縁に存する山系のほか、都心部から30分圏域に自然探勝、登山、ハイキング、キャンプなどが複合的に楽しめる山々が多数存在し、都市と自然の魅力を同時に享受できる。

関西を取り巻く現状と課題

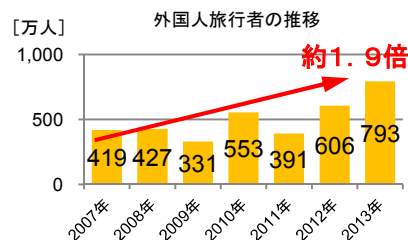
○本格的な人口減少社会の到来と急激な高齢化の進展 P4

- ・関西の人口は、2010年をピークに減少、生産年齢人口は減少の一途。
- ・一方、関西の65歳以上人口は、2010年では約480万人だが、2040年には約630万人に増加すると推定されている。



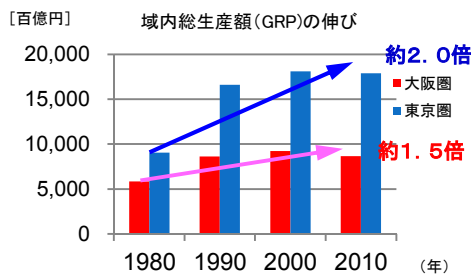
○外国人旅行者の急激な増加 P5

- ・外国人旅行者は、2007年から2013年の6年間でほぼ倍増している。
- ・関西には多くの魅力が隠れており、広域的な観光資源の活用を目指した海外プロモーションの連携強化が課題である。

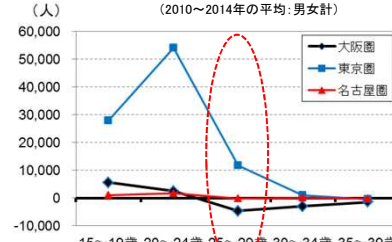


○関西の相対的地位の低下と東京一極集中からの脱却 P4～5

- ・1980年から2010年までの大阪圏における域内総生産の伸びが約1.5倍であるのに対し、東京圏では約2.0倍と差が開いている。
- ・大阪圏は東京圏や名古屋圏が20歳代後半の層でも流入しているのに対し、唯一流出している。



圏域別年代別転入転出数の比較（2010～2014年の平均：男女計）



○地方都市の活力低下と農山漁村の集落機能の低下 P6

- ・地方都市では人口の減少・高齢化や中心市街地の空洞化、低未利用地・空き家の増加が進んでいる。
- ・農山漁村では農林水産業の総産出額の減少、従事者の高齢化、耕作放棄地・施業が行われない森林の増加等、集落機能の低下が進行。

○関西を脅かす自然災害リスク P6～7

- ・今後30年以内に70%程度の確率で南海トラフ地震の発生が危惧されており、関西に大規模な被害の発生が想定されている。
- ・近年、「今まで経験したことがない」と表現されるように全国各地で雨の降り方が局地化、集中化、激甚化している。
- ・都市機能が集積している大阪平野の多くはゼロメートル地帯であり、地下街も発達していることから、水害のリスクは極めて高い。

○社会資本の老朽化 P7

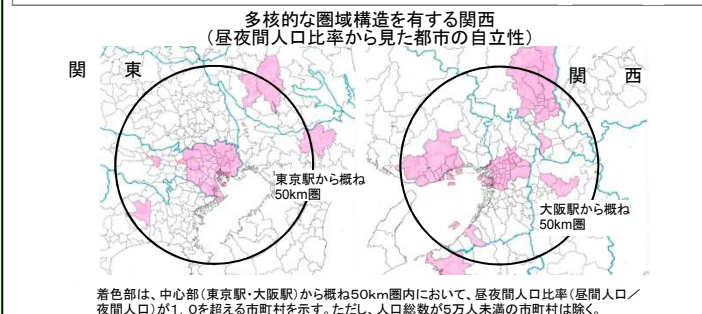
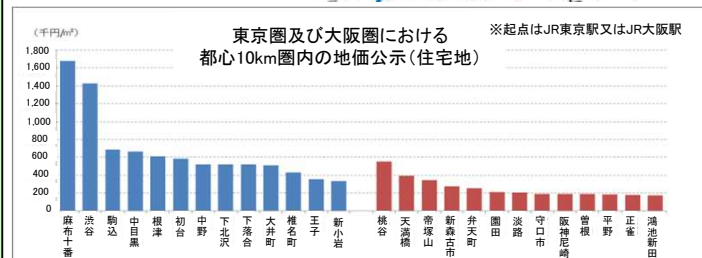
- ・橋梁、トンネル等、対策が必要とされる施設が増加し、建設後50年を経過する施設の割合が加速度的に高くなるため、戦略的かつ適切な維持管理・更新を進めることが必要となるが、地方自治体において、老朽化対策に必要な技術力・人員確保等の課題が生じている。

○関西を巻き込む大きな社会の潮流変化 P7～8

- ・食糧・水・エネルギーの制約、地球環境問題／ライフスタイルの多様化／コミュニティの弱体化／ICTの劇的な進歩など技術革新の進展

○関西の発展を支える都市圏の状況 P5～6

- ・京阪神都市圏は、道路ネットワークの整備が遅れ、渋滞が慢性化している。また、地震時に危険な密集市街地も残存している。
- ・京阪神都市圏には、核となる都市が複数あり、都市活動は必ずしも大阪に集中しておらず、通勤通学時間は比較的短く、コンパクトな都市圏となっており、東京圏に比べ地価が安い等、暮らしやすい都市圏としてのポテンシャルが高い。



近畿圏（関西）広域地方計画骨子（案）概要②

- ☞長い歴史を有し、伝統・文化にあふれた関西が、我が国を牽引する地域として発展し続けるためには、現状と将来の課題に向き合いつつ、蓄積された経験を活かし、国、地方公共団体、民間団体がそれぞれの役割分担に応じ、未来を切り開いていかなければならない。第1部に掲げた関西に係る状況の変化に手をこまねいていれば、関西の将来像は非常に厳しいものになることは明らかである。
- ☞我が国は先進国のなかでも異例ともいえる東京への一極集中が続いており、人口減少を抑え国力を高めていくためにも関西が牽引役となり東京一極集中を是正していくことは国土形成の重要な課題である。
- ☞そのためには、想定される南海トラフ巨大地震等の災害への対応を進め、安心して暮らし経済活動を営める備えが必要である。
- ☞さらに、複眼型スーパー・メガリージョンの一翼として、関西が高い産業基盤と知の集積を活かして我が国の成長エンジンとなり、成長著しく大きなマーケットであるアジアを中心とした世界のゲートウェイとしての地位を築き、長い歴史と奥深い伝統文化、美しい自然により、世界の人々を魅せ続け、東京一極集中の是正と地方創生を実現する国土を形成していく。

第2部 <関西の目指す姿>

第1節 アジアのゲートウェイを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域

P9

- アジアを中心に世界を相手に成長し、複眼型スーパー・メガリージョンの一翼を担う
- 東京との対峙ではなく、アジアを中心とした世界のゲートウェイとしての地位を築く
- 我が国の成長を牽引する次世代産業が、健康・医療産業等分野で次々と生まれる
- グローバルニッチトップ企業等が生まれ成長していく圏域。

第2節 日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域

P10

- 長い歴史と伝統文化を有し、豊かな自然に恵まれている
- 個性あふれる地域づくりにより、世界の人々を惹きつけてやまない
- 世界のお客様が地域の魅力を存分に味わうことができる圏域。

第3節 快適で豊かに生き生きと暮らせる圏域

P12

- 「コンパクト」化と「ネットワーク」づくりを進め、地域で子供を産み育てることができる
- 「二地域居住」や「二地域生活・就労」の多様な生活様式が選択できる
- 地方都市や「小さな拠点」が連携して、持続的に生き生きとした生活を営むことができる
- どこに住んでも、教育、医療、福祉等の基本的な生活サービスを享受できる
- 若い世代が希望を持って働き、女性が活躍することができ、高齢者が社会参画できる圏域。

第4節 暮らし・産業を守る災害に強い安全・安心圏域

P14

- 南海トラフ巨大地震や激甚化する自然の脅威から人々の生命・財産を守る
- 社会資本の老朽化対策等が実施され、安全・安心な生活や経済社会活動が営める
- 首都圏の非常時には首都圏の有する諸機能のバックアップを担いうる圏域。

第5節 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域

P16

- 環境対策に圏域全体で取り組む環境先進圏域
- 健全な水循環系の構築、多様な生態系の保全・再生に向け、環境再生に取り組む
- 関西の地域特性や資源循環の性質等に応じて、循環型社会を実現する圏域。

<戦略のイメージ>

- (1) 成長エンジンとなる新たな産業の創出 P9～10
- ・「知の拠点」を形成、国家戦略特区等を活用し、健康・医療産業等の次世代産業の創出 等
 - ・グローバルニッチトップ企業への支援、製品の高付加価値化 等
- (2) 国内外のネットワーク機能の強化による対流促進
- ・リニア中央新幹線を見据え、複眼型スーパー・メガリージョンの一翼としてヒトやモノの対流を促進。
 - ・既存空港の連携強化、道路のミッシングリンク解消、北陸新幹線を見据えた日本海・太平洋2面活用 等
- (3) 創造性豊かな人材の集積

- (1) 歴史・伝統文化の継承・活用と新たな地域資源の発掘 P11～12
- ・歴史・文化資産、精神文化の保全・継承、新たな観光資源の発掘、活用 等
- (2) 広域観光・国際観光の推進
- ・広域観光エリアのブランド化、交通アクセスの改善、受入環境の整備 等
- (3) アジア・世界への情報発信力の強化

- (1) 快適で暮らしやすい都市環境の形成 P12～14
- ・京阪神都市圏では、職住接近等の暮らしやすい可能性を活かし、子育て、健康・医療分野等の充実を図り、誰もが暮らしやすい居住環境を整備
 - ・コンパクト＋ネットワークの都市形成、スマートウェルネス住宅・シティの推進 等
- (2) 地方都市の再生
- ・広域道路ネットワークの整備、地方都市間の連携強化、連携中枢都市圏の形成
 - ・二地域居住の促進、地場産業の競争力強化、農業の第6次産業化 等
- (3) 過疎化する集落の維持・再生
- ・地域資源の維持や国土の保全を図るため、交通ネットワーク強化により「小さな拠点」を形成し、生活サービス機能を維持。そこを核として農業・観光等を振興。
 - ・道の駅を防災・観光等地域拠点として活用、過疎地域と都市との共生・対流や移住の促進 等
- (4) どこにいても基本的な生活サービスが享受できる環境の整備
- ・高速道路ネットワークの整備、医療資材や人材確保の連携、ドクターヘリの活用 等
- (5) 地域の担い手を確保する環境づくりの推進
- ・若者が希望を持って働ける社会、高齢者が活躍できる社会、女性活躍社会の実現 等

- (1) 南海トラフ巨大地震等への備え P14～16
- ・耐震化対策、液状化対策、津波対策、命の道の整備、ハード・ソフトの防災・減災対策 等
- (2) 災害に強くしなやかな国土の構築
- ・国土強靱化、地域計画による対策推進、激甚化する自然現象に対応した治水対策 等
- (3) 社会資本の老朽化対策の推進
- (4) 首都圏の有する諸機能のバックアップ

- (1) 都市環境の改善 P16～17
- (2) 農山村地域の環境保全
- (3) 健全な流域圏と生態系の保全・再生
- (4) 自然との共生の推進
- (5) 循環型社会の構築
- (6) 環境・エネルギー技術での世界貢献
- (7) 地球温暖化対策の推進